

Slovenia Monthly June 2025

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2025年7月8日



～6月の主なポイント～

内 政：国民議会における国防費増額決議の承認

外 政：ファヨン外相の訪日

政治

【内政】

●モジナ＝ズパンツ副人権オンブズマン、オンブズマン選出ならず【6日、18日】

6日、ピルツ＝ムサル大統領はモジナ＝ズパンツ副人権オンブズマンを人権オンブズマンに指名した。

18日、モジナ＝ズパンツ氏は、議会で53人の議員が賛成、6人が反対したため、十分な支持を集めることができず、人権オンブズマンとして選出されなかった。新オンブズマンに任命されるには、90人の国会議員の3分の2以上の多数を獲得する必要があった。

●ヤンシャ元首相、パトリア裁判の影響を今もなお感じていと訴える【9日】

パトリア防衛取引汚職事件に関する裁判をめぐり、ヤンシャ元首相が国を相手取って起こした損害賠償訴訟の審門がクラン地方裁判所で終了した。ヤンシャ元首相は裁判の影響を今もなお感じていと述べた。マトズ弁護士によると、ヤンシャ元首相は、審理期間の長さ、事件の注目度の高さ、同元首相が不法に投獄されたこと、そして裁判の結果、同元首相の名誉が依然として傷つけられていることを理由に、90万ユーロの損害賠償を求めている。

●世論調査：ロガル議員とプレビリッチ欧州議会議員が政治情勢を揺るがす【10日】

最新のメディアナによる世論調査では、民主党(SDS)と自由運動党(GS)のリードを確認しつつも、ロガル議員が率いる民主主義者同盟党と、緑の党のプレビリッチ欧州議会議員が率いる新党の台頭により、

スロベニアの政治情勢に顕著な変化がもたらされていることが示された。

●リュブリャナ市長、ベオグラード博覧会の顧問就任が承認【10日】

ヤンコビッチ・リュブリャナ市長は、2027年ベオグラード博覧会の顧問を務めることを、汚職防止委員会から承認された。しかし、監視機関が複数の制限を付したため、ヤンコビッチ市長は、主催者がこれらの条件を受け入れる場合のみ役職を引き受けるとした。ヤンコビッチ市長は、市長としての職務に影響を与えないこと、市長職の信頼性を損なう行為を控えること、市資源を使用しないことを条件に、同顧問を務めることができる。

●対パレスチナ友好議連設立へ【11日、30日】

11日、連立与党3党は議会で対パレスチナ友好議連の設立を目指したが、議会外交政策委員会で議論された提案は、発議者に野党議員が1人も含まれていなかったため失敗に終わった。

30日、議会会派代表者会議は、議会の友好議連に関する規則改正を採択した。今後、友好議連は野党・与党双方の議員の参加を必要としなくなる。これにより、対パレスチナ友好議連を設立できるようになった。

●リュブリャナにてプライドパレード開催【14日】

14日、1週間にわたるリュブリャナでのプライドパレードフェスティバルが終了した。パレードの参加者は、ヘイトクライムに対する厳しい罰則等を求めた。

●世論調査:国防費増額の第一段階を過半数が支持【16日】

スロベニア国民の過半数(53%)は、今年国防費をGDPの2%に増額するという政府の計画を支持しているが、さらなる増額と資金配分方法については世論が分かれていることが、ニナメディア社がドネヴニク紙のために実施した世論調査で明らかになった。また、軍事的脅威が発生した場合、国民の45%がスロベニアを守るために武器を取る用意があると回答した。スロベニアの独立と領土保全に対する潜在的な脅威については、ロシアが最も多く挙げられた。

●世論調査:民主主義者同盟党が3位に浮上【16日】

ロガル元SDS党員率いる民主主義者同盟は、最新の世論調査で3位に浮上した。野党SDSは5月から変わらず25.3%の支持率で首位を維持している。一方、与党GSは1ポイント上昇し、18.1%で2位となった。民主主義者同盟は7.9%と大きく差をつけられているものの、5月から3ポイント上昇している。

●左派党とヴェスナ党が次期総選挙で連携【17日】

左派党と緑の党「ヴェスナ」は、次期総選挙に向けた共同候補リストを編成する覚書に署名した。両党は、この動きが「未来の連立」を築き、現在の主要な課題に対応できると主張している。

●民主主義者同盟党、非議会政党と合併【17日】

ロガル元SDS党員率いる民主主義者同盟党は、非議会政党「Concretely」と月末に合併すると、ロガル議員とデムシャク氏が発表した。今後数か月で共同の選挙公約を策定する予定だ。スロベニアの将来に関する見解が一致した両党は、民主主義者同盟党の名の下に協力していく。

●政府、2026～2027年度の予算支出計画を防衛費増で引き上げ【17日】

政府は2026年と2027年の予算支出の暫定的な内訳を発表し、来年度の支出上限を175億ユーロに、2027年度を178億6,000万ユーロにそれぞれやや引き上げた。ポシュトヤンチッチ財務相は会合後、記者団に対し、これは防衛費に追加資金が割り当てられたためだと説明し、政府は最新の支出データに基づき、国防省の支出を調整したと付言した。

●議員ら、閣僚任命手続きの簡素化に向けた提案を支持【18日】

国民議会は、新政権樹立のプロセスを簡素化・迅速化することを目指した憲法改正案を圧倒的多数で承認した。採決の結果、議員90名中75名が賛成、反対はゼロで、必要な3分の2の多数を得た。この提

案により、新首相は政令によって内閣の規模と構成を決定できる柔軟性を得ることになる。

●トニン氏が党首を辞任、NSiは秋に新党首選出へ【20日】

トニン新スロベニア(NSi)党首は、7年間務めた党首を辞任し、9月に開催される党大会で党首選に出馬しないと発表した。党評議会の過半数が、次期総選挙後にSDSとの連立政権樹立を検討することを望んでいることが明らかになった。一方、トニン氏はこれに反対し、辞任を申し出た。

●プレビリッチ欧州議会議員、総選挙に向け10月に新党の正式発足を発表【23日】

2026年の総選挙への出馬をめぐる数か月にわたり憶測が飛び交っていたプレビリッチ欧州議会議員(緑の党/欧州自由連盟)は、23日、自身の政党を率いて出馬する意向を発表した。新党は10月18日に開催される党大会で正式に発足し、綱領と党員が発表される。

●POP TV世論調査:政府支持率は上昇、与党支持率は低下【23日】

ゴロブ政権の支持率は、5月の31.3%から32.5%へとやや上昇した。これは、メディアナが民間放送局POP TVのために実施した世論調査で明らかになった。一方、与党自由運動党(GS)は支持率を落とし、依然として野党民主党(SDS)に次ぐ2位となっている。SDSの支持率は21.4%から23.6%に上昇したが、GSは支持率を落とし、17.8%から15.2%に低下した。

●スロベニア、EU復興ファシリティに5億ユーロを申請【24日】

スロベニアは、EU復興・強靭化ファシリティに対し、総額5億200万ユーロの資金要請を行った。復興・強靭化局は、スロベニアが国家復興・強靭化計画の27のマイルストーンと目標を達成したことを受けて、この資金を要請した。これらの実施状況は今後、欧州委員会によって審査される。

●大統領、常設仲裁裁判所候補者5名を指名【27日】

ピルツ＝ムサル大統領は、常設仲裁裁判所メンバーの候補者5名のリストを国民議会に提出した。議会は、政府と司法評議会が承認した5名の候補者から3名を選出する必要がある。5名の候補者には、再任を申請している現職メンバー3名(ヴェリツァ・トルステニャク、アナ・スタニッチ、ユレ・ヴィドマル)が含まれている。他の2人の候補者は、マティ・アウベル氏とヴェロニカ・フィクファク氏。

●世論調査:スロベニア国民は第三次世界大戦の懸念を強める【27日】

市場調査会社ヴァリツォンの調査によると、第三次世界大戦や核戦争の可能性を、自分の生活に重要な影響を与える要因として考える人の割合が40%に上昇し、5月からほぼ10ポイント増加した。回答者の最大の懸念は依然として生活費の上昇で、48%が懸念を表明し、63%が生活に最も影響を与える要因としてインフレを挙げた。

【外政・EU・防衛等】

●ピルツ＝ムサル大統領のアフリカ訪問【1日、2日、3日、4日、5日】

1日、ピルツ＝ムサル大統領は、ケニアを訪問し、同国の建国記念式典で多国間主義の重要性を強調し、2日にナイロビで開催された生態系の保護と平和の促進に関する国際会議の開会式に出席した。また、ケニアに進出しているスロベニアの2社、Roto社とCetis社の代表とも会談した。

3日及び4日、ピルツ＝ムサル大統領はマダガスカルを訪問した。3日に行われたラジョエリナ大統領との会談では、開発協力と人道支援、そして効果的な気候変動対策が中心となる議題となった。両大統領は、特に世界的な不平等の拡大を踏まえ、国際関係における連帯の重要性を強調した。4日、ピルツ＝ムサル大統領は、スロベニアの財政支援で建設されたアンタナナリボの新小学校を開校した。同大統領は、学校の建設を支援したスロベニアの宣教師ペドロ・オペカ氏に対し、地域社会への献身的な貢献に感謝の意を表した。

5日、ピルツ＝ムサル大統領はエチオピアを訪問し、東アフリカ歴訪を締めくくった。大統領府によると、同大統領はエチオピアの一部地域で治安情勢が悪化していることを踏まえ、各国代表に平和のメッセージを伝え、スロベニアとして関係強化と協力強化への意欲を表明した。アビィ首相およびアフリカ連合(AU)首脳との会談では、開発協力、関係強化、経済協力についても議論された。

●ゴロブ首相、各国にパレスチナの承認を要請【4日】

ゴロブ首相は、スロベニアが1年前にしたように、世界各国にパレスチナを承認するよう求め、EU加盟国はEU・イスラエル協会協定の停止に向けて動くべきだと提案した。ファヨン外相は、スロベニアはガザ地区での即時停戦を実現したいとし、パレスチナ自治区の人道状況について懸念を表明した。

●スロベニア、新たな防衛目標に防空能力と兵站能力の強化【5日】

NATO諸国の国防相らは、加盟国の防衛能力に関する新たな目標を確認した。サヨビッツ国防相は、スロベニアは防空能力、ヘリコプター能力、兵站能力の強化を約束した。これらの目標は既存のコミットメントに加えられるものだとして述べた。防空能力は、ドイツ製のIris-T中距離防空システム3基の購入によって強化される。

●スロベニア、イスラエルによる活動家乗船船の拿捕を違法と非難【10日】

スロベニア外務省は、ガザへ向かっていた活動家12人を乗せた「違法に拿捕された民間船」について、「ガザにおける悲惨な人道危機を痛感させる出来事」と非難した。

●ファヨン外相のモルドバ訪問【10日】

ファヨン外相は、2011年以来初めてモルドバを訪問し、キシナウで高官と会談し、EU加盟に向けたモルドバの努力の進展を歓迎した。サンドゥ・モルドバ大統領との会談で、ファヨン外相は、法の支配、民主的機関、人権、腐敗との闘い、経済改革を強化するモルドバの改革の進展を称賛した。

●スロベニア、ボスニアに軍事車両4台を寄付【10日】

サヨビッツ国防相はボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボを訪れ、ヘレズ・ボスニア国防相と会談した。サヨビッツ国防相は、この機会を利用して、NATOのイニシアチブに基づき、ボスニアの軍事警察向けの4台の車両を贈呈した。また、EUFORアルテア作戦に参加しているスロベニア軍部隊と、サラエボのNATO本部を訪問し、これらの軍事作戦の指揮官と会談した。

●ファヨン外相のウクライナ・東南欧サミット出席【11日】

ファヨン外相は、ウクライナで初めて開催された第4回ウクライナ・東南欧サミットに出席した。外務省によると、ファヨン外相はウクライナにおける平和へのスロベニアのコミットメントを再確認し、ウクライナに対し継続的な支援を約束した。ファヨン外相は、国連憲章に従い、キーウの同意を得た上で、持続的で無条件の停戦と平和合意の実現を目指すスロベニアの立場を再確認した。

●大統領・首相、イスラエルを緊張激化で非難【13日】

13日、ピルツ＝ムサル大統領とゴロブ首相は共同声明を発表し、イスラエルがイランに対して一連の攻撃を行ったことを非難した。両者は、イスラエルがイラ

ンの核開発問題に関する新たな合意の仲介に向けた外交努力に回復不可能な損害を与えた可能性がある」と警告した。

●国防省、フランス製榴弾砲を購入【13日】

国防省は、欧州共同調達契約に基づき購入する18門のCAESAR自走式榴弾砲のうち最初の12門を発注した。同省は、Mk2型12門の榴弾砲に対し、消費税を含む1億1000万ユーロを支払った。この購入は、6か国の国防省間の大量購入契約の一部だ。スロベニアは昨年6月にクロアチア、エストニア、フランスと枠組み協定を締結し、今年5月にはポルトガルとブルガリアが参加した。残りの6門の榴弾砲は、まだ注文が完了していないが、2030年までに納入される見込みだ。

●スロベニア、国連安全保障理事会でイラン攻撃を非難【14日】

ブオカル＝ドロビッチ・スロベニア国連副大使は、13日の夜遅くに開催された安全保障理事会会合で、イスラエルのイラン攻撃とイランの対応について深刻な懸念を表明した。

●スロベニア、テヘランでの領事サービスを制限【14日】

スロベニア大使館は、最近の緊張の高まりを理由に、テヘランでの領事活動をスロベニア市民のための最も必要なサービスに限定したと発表した。状況が落ち着き次第、領事サービスは全面的に再開される。

●ピルツ＝ムサル大統領の南東欧協力プロセス首脳会議出席【16日】

ピルツ＝ムサル大統領は、南東欧協力プロセス（SEECP）の年次首脳会議に出席し、フォーラムに対し、域内諸国のEU加盟プロセスを加速させ、南東欧諸国の人々にとって安定、繁栄、平和に満ちた未来を築くよう訴えた。

●ファヨン外相、中東の緊張緩和を呼びかけ【17日】

ファヨン外相は、中東の緊張緩和を呼びかけ、スロベニアを含むEU市民のイスラエルとイランからの退避に関する協議がEUレベルで進められていると述べた。ファヨン外相は、「主要な声明は、緊張の即時緩和が不可欠であること、紛争当事者に攻撃を停止するよう求める呼びかけだった」とEU外相の非公式会合の結果についてコメントした。同外相は、民間人および民間インフラの保護に向けた取り組みの重要性を指摘し、核施設への攻撃は国連憲章に違反すると述べた。

●マルコ・ボシュニャク氏がEU司法裁判所判事に就任【17日】

16日、マルコ・ボシュニャク氏は、ルクセンブルクで開催された式典で、EU司法裁判所判事の職に就任した。同氏は3月に国民議会で選出された。

●スロベニア、2028年までUNRWAに400万ユーロを拠出【17日】

スロベニア政府広報局（UKOM）は、スロベニアが2028年まで、パレスチナ難民のための国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）に400万ユーロを拠出すると発表した。UKOMによると、今年100万ユーロが同機関に拠出され、その後2028年まで毎年100万ユーロが拠出される予定。

●スロベニアの外交官がイランを一時的に離れる【19日】

スロベニア外務省は、テヘランのスロベニア大使館の外交団とその家族がイランを退去したと発表した。ファヨン外相は、これは一時的な安全措置であり、スロベニアが両国間の外交関係を縮小するものではないと述べた。大使館は、状況が許す限り早期に外交使節団を再派遣するため、イラン当局との連絡を維持し、現地の情勢を注視していく。

●スロベニア、イスラエル入植地との貿易停止を求める提案を求める【19日】

スロベニアと他の8か国のEU加盟国は、欧州委員会に対し、2024年の国際司法裁判所（ICJ）の勧告を履行し、パレスチナにおける違法なイスラエル入植地との貿易を停止するよう求めた。これらの国々は、欧州委員会が、国連最高裁判所が認定した義務をEUが確実に履行するための具体的な措置案を提示することを望んでいる。

●スロバキア大統領のスロベニア訪問【19日】

19日、ペレグリーニ・スロバキア大統領はスロベニアを訪問した。同大統領を歓迎したピルツ＝ムサル大統領は、スロバキアの産業サプライチェーンにスロベニアの企業をより多く参加させ、スロベニアの開発プロジェクトにスロバキアのパートナーをより多く参加させたいと述べた。両首脳は、現在の危機においてEUは団結を維持しなければならないことで一致した。

●外相、アラブ諸国の外相と中東情勢について協議【19日】

ファヨン外相は、エジプトとカタールの外相とそれぞれ電話会談を行い、イスラエルとイランの紛争、およびガザの情勢について協議した。ファヨン外相とアブデルアティー・エジプト外相は、中東での大規模な戦争を防ぐためには外交と対話が重要であると一致

した。シェイク・ムハンマド・カタール外相との会談で、ファヨン外相は、カタールが「ガザでの停戦、人道支援、人質全員の解放に向けた交渉を継続する努力」を歓迎した。

●ファヨン外相の訪日【20日、22日】

20日、ファヨン外相は日本を訪問し、東京で岩屋外相と会談を行った。ファヨン外相は、両国間の「同盟関係」を強調し、中東における和平努力の重要性も強調した。さらに、城内実経済安全保障担当大臣とも会談し、経済協力の強化を求めた。

22日、ファヨン外相とビジネス代表团は、大阪で開催された2025年大阪・関西万博を訪問した。また、この機会にスロベニアの投資促進機関SPIRITとウルグアイの投資促進機関は、国際化と外国直接投資(FDI)の促進における協力を約束する協定に署名した。

●スロベニア、イランとイスラエルの即時停戦を要請【20日】

スロベニアは、イスラエルとイランの間で継続している敵対行為に深い懸念を表明し、国連安全保障理事会で両国に対し即時停戦の実施を求めた。

●ゴロブ首相、EU・イスラエル貿易協定の停止を求める嘆願書を支持【21日】

ゴロブ首相は、スロベニア主導のイニシアチブ「My Voice, My Choice」が立ち上げた嘆願書を支持し、ガザ地区における国際人道法違反を理由にEUに対しイスラエルとの貿易協定を停止するよう求めている。オンライン記者会見でゴロブ首相は、スロベニアだけでは変化を起こすことはできないものの、「世界の指導者たちを説得できれば、最初の一步を踏み出せる」と強調した。

●スロベニア、米国のイラン核施設爆撃を受け緊張緩和を訴え【22日】

22日、イランの核施設への米国による攻撃を受け、ゴロブ首相と外務省は、中東情勢の緊張緩和と交渉のテーブルへの復帰を強く求め、敵対行為は地域および世界規模で深刻な脅威となっていると主張した。スロベニアはイランの核開発計画を依然として懸念しており、核拡散への反対を改めて表明した。一方、ヤンシャSDS党首は、イランの核施設を攻撃したトランプ米大統領を祝福した。

●ブレンコビッチ・クロアチア首相のスロベニア訪問【23日】

ブレンコビッチ・クロアチア首相はスロベニアを訪問し、ゴロブ首相と会談を行った。両首相は、NATOの国防費における新たな柔軟性を歓迎した。ゴロブ首

相とブレンコビッチ首相は、中東情勢について協議はしていないものの、中東情勢への懸念も表明した。また、両首相は、国境沿いの橋梁建設・維持管理に関する協定に署名するとともに、スロベニアが計画している新原子力発電所「クルシュコ2」に関する協力の可能性についても協議した。

●ファヨン外相、EU・イスラエル貿易協定に関する共通の立場を期待【23日】

ファヨン外相は、イスラエルがEUとの貿易協定に違反しているというEUの共通の立場が形成されることを期待すると述べた。

●外相、中東情勢を協議するためMED9外相会合を主催【23日】

ファヨン外相は22日、ブリュッセルでMED9外相会合を主催した。スロベニアは、志を同じくする地中海および南欧9か国からなる非公式会合の議長国を務めている。会合では、中東情勢の現状と、地中海新協定へのMED9諸国の共同貢献について議論された。

●スロベニア、スーダンでの戦闘の終結を求める【27日】

ジュボガル国連大使は、ニューヨークで開催された国連安全保障理事会会合で演説し、スーダンでの暴力に衝撃を受けたと述べた。同大使は、戦闘の終結と人道支援要員および民間人の保護を求め、戦争犯罪者の不処罰に反対した。また、人道支援要員および医療従事者に対する攻撃を非難し、紛争当事者は、人道支援要員の円滑なアクセスを可能にするため、戦闘の一時停止と安全な通路の確保について合意すべきだと述べた。

●GSがALDEに加盟【28日】

自由運動党(GS)は、ヘルシンキで開催された会合で、デンマークとブルガリアからの新メンバーと共に、欧州自由民主同盟(ALDE)への正式加盟が承認された。同党は、欧州の政治家族への加盟を「スロベニアが欧州の政治潮流により深く関与するための重要な一歩」であり、欧州の価値観へのコミットメントの再確認だと述べた。ALDEは現在、41か国から73の政党が加盟している。

●スロベニア、イラン核計画監視におけるIAEAを支持【30日】

スロベニアは、イランの核計画監視を継続するという国際原子力機関(IAEA)の任務を支持し、イランに対しIAEAへの協力を拒否するのをやめるよう求める欧州諸国の呼びかけに賛同した。

＜国防費増額＞

●連立与党左派、国防費増額に関する国民投票を提案【9日】

9日、連立与党の小政党である左派党は、2025年、国防費をGDPの2%に増額し、将来的にはその水準を超えるという政府の計画について、国民投票を実施するよう提案した。

●国民議会議員、国防費増額決議を承認【12日】

国民議会は、NATOの新たな支出要件と不透明さを増す地政学的状況を踏まえ、国防・安全保障政策への支出を今年GDPの2%に増額し、2030年までに段階的に3%に増額することを盛り込んだ修正国防決議を承認した。

●NATOの国防費5%目標に社会民主党、反対【20日】

社会民主党(SD)は、加盟国の国防費をGDPの5%に引き上げるとするNATOの提案に反対を表明し、この増額が国民の犠牲となることを懸念した。SDは、ハーグで開催されるNATO首脳会議で政府に対し、この提案を拒否するよう求めた。

●コルディシュ議員、国防費増額に関する国民投票の動議を提出【23日】

左派議員のコルディシュ氏と同人が率いる新興政党は、政府の国防費大幅増額計画に関する国民投票実施を求める動議を提出するため、有権者5,000人の署名を集めて、議会に動議を提出した。

●ゴロブ首相、GDPの2%を基礎防衛力に充てると表明【23日】

ゴロブ首相は書面声明で、スロベニアはGDPの2%を基礎防衛費に充て、さらに1.5%を安全保障関連支出に充てる計画だと述べた。

●ゴロブ首相、NATO首脳宣言を歓迎【25日】

ゴロブ首相は、NATO首脳が採択した宣言を歓迎した。この宣言は、スロベニアが最近採択した防衛決議で定められた2030年までにGDPの3%まで国防支出を増やすという目標に即してペースで支出を増やすための十分な保障措置が含まれているためだ。2029年に見直しを行い、「2030年から2035年にかけて我々が何を約束するか」を決定することで合意した。

同25日、左派党は同宣言に反対する姿勢を表明した。ヴレチュコ左派党党首は、「我々が政権と政治の場にいる限り、我々はこれに反対し、予算支出が兵器・軍備に5%まで増加しないよう尽力する」と述べるとともに、左派党は連立政権を維持し、社会政策の優先事項に取り組むと付言した。

●政府にとって国防予算目標は重要【30日】

連立与党は会合で、スロベニアが国防費に関して追求すべき主要なコミットメントは、最近採択された軍事力強化に関する国家決議に定められた目標を達成することであると合意した。これは、NATOにおいて確認された2035年までに5%というはるかに高い目標ではなく、2025年中にGDPの2%、2030年までに3%に国防費を引き上げることである。

経済・統計・科学技術

●イスラエル航空の運航許可をめぐるインフラ省が圧力に【2日】

インフラ省は、イスラエル航空にリュブリャナとテルアビブ間の運航許可を与えた決定について説明を求める圧力にさらされている。ゴロブ首相はブラトウシェク・インフラ大臣に説明を求め、連立与党の左派党や複数のNGOも許可の取り消しを要請している。同省は、現行の法律では他の決定は不可能だったと述べた。

●LTH Castings、リュブリャナで生産を拡大【2日】

自動車産業向けアルミニウム鋳造品および製品を製造するシュコフィア・ロカ拠点のLTH Castingsは、電気自動車(EV)用部品の生産拡大のため、リュブリャナでの生産を拡大する。同社は、旧リトストロイ工業団地跡地のリュブリャナ工場内に、最先端の技術と機械を備えた電気自動車部品のコア生産施設を設立したと発表した。今後数年間でEV部品用の追加生産ラインが設置される新施設には、社員や高校生、大学生向けの研修センターも併設される。

●OECD、スロベニアの2025年と2026年の経済見通しを下方修正【3日】

経済協力開発機構(OECD)は、スロベニアの2025年の経済成長率見通しを1ポイント下方修正し、1.6%とした。2026年の見通しは2.4%と、0.2ポイント下方修正されている。

●大臣、中国自動車メーカーNIOとの協力の可能性について協議【3日】

ハーン経済大臣はミュンヘンで中国の電気自動車メーカーNIOの代表者と会談し、NIOとスロベニア自動車産業との協力の可能性について更なる協議を促した。非公式情報によると、NIOの自動車はスロベニアのマリボル市近郊のホチェにあるマグナの工場で生産される可能性がある。

●ボロヴニツァ周辺の鉄道インフラが大規模改修【3日】

リュブリャナの南西約20kmに位置するボロウニツァ駅が、1億1,200万ユーロを投じて大規模な改修工事を実施した。このプロジェクトは2022年9月に着工し、EUの強靱性・復興支援助成金として4,450万ユーロの交付を受けている。

●太陽光発電と風力発電の拡張にEU支援による6,450万ユーロの補助金を承認【3日】

スロベニアの再生可能エネルギー目標達成に向けた最新の取り組みとして、結束・地域開発省は、新規の太陽光発電・風力発電設備の建設にEUから6,450万ユーロの資金提供を承認した。

●4月の輸出は前年同月比2.4%減、輸入は8%増【4日】

スロベニアの4月の輸出額は約58億ユーロ、輸入額は約62億ユーロで、それぞれ前年同月比2.4%減、8%増となった。4月の貿易赤字は44万6,500ユーロで、輸出は輸入の92.8%を占めた。統計局によると、今年1月から4月までの輸出は34%増の274億ユーロ、輸入は14%増の248億ユーロだった。

●ブレッド水フォーラムで新たな汚染物質を調査【4日】

38か国から専門家、政策決定者、イノベーターがブレッドに集まり、飲料水中の現代的な汚染物質について議論するブレッド水フォーラムが開催された。同フォーラムの主催である非営利団体「ブレッド・ウォーター・フェスティバル」の共同創設者であるガイッチ氏は、このフォーラムは飲料水に関する理解を深める世界有数のイベントに成長したと述べた。

●イエセニツェ鉄道の分岐点の改良工事請負業者が決定【4日】

イエセニツェの鉄道分岐点の改修工事の請負業者として建設会社リコが選定された。公共調達ポータルに掲載されたデータによると、このプロジェクトは税込みで約1億4,600万ユーロで実施される。リコは再公募で唯一の入札者だった。

●スロベニア西部で新しい太陽光発電所が稼働【4日】

スロベニア西部のカナルスキ・ヴルフ近郊にあるアウチェ揚水式水力発電所に隣接する新しい太陽光発電所が、国営電力会社 Soške Elektrarne Nova Gorica (SENG) によって正式に開所した。年間3.3ギガワット時の発電が見込まれている。スロベニアは現在、電力需要の4分の1を再生可能エネルギーで

賄っており、2030年までにこの割合を3分の1に拡大する計画。

●政府、気候変動法案の改訂版を採択【5日】

政府は、追加協議による遅延を受け、迅速な採択を求める声が上がっていた気候変動法案を新たに採択した。政府は、同法案では、道路輸送と建築物に対する新たな排出枠制度の影響が最終価格に反映されないよう規定されており、優れた妥協案だと評価した。複数の環境NGOは、この法案は骨抜きにされており、いくつかの重要な要素が欠けていると指摘した。

●夏季、スロベニアへの鉄道路線を増便【5日】

スロベニア鉄道は、クロアチアの首都ザグレブ、海沿いの都市リエカとプーラ、そしてブダペストとワルシャワへの鉄道路線を増便する。ザグレブ、リュブリャナ、プーラを30年以上ぶりに直結する鉄道路線が開通する。

●スロベニア、国連観光理事会に選出【5日】

スロベニア経済省によると、スロベニアは2025～2029年の任期で世界観光機関(WTO)の理事に選出された。秋の総会での承認を待って、スロベニアが国連観光の主要運営機関に初参加することになる。

●太陽光発電と風力発電に6,400万ユーロ超の補助金

環境・気候・エネルギー省は、2025年から2029年にかけて、企業、個人事業主、協同組合による新規太陽光発電所および風力発電所への投資に対し、6,450万ユーロ相当の補助金申請を公募すると発表した。企業、個人事業主、協同組合は、蓄電池ユニットの有無を問わず、新規太陽光発電所および風力発電所の建設に補助金を受け取ることができる。

●マキシマーケットの水質汚染は、メンテナンス作業が原因の可能性が高い【6日】

リュブリャナ中心部の共和国広場にある百貨店マキシマーケットの水は、建物のメンテナンス中に排泄物に汚染された可能性が高いと、小売り業者のメルカトルがSTA通信に語った。この事実を確認するため、同社は現在、海外からの分析結果を待っている。

●中央銀行、GDP成長率予想を1.3%に下方修正【9日】

スロベニア中央銀行は、今年のGDP成長率予想を1.3%に下方修正した。これは冬季の予測からほぼ1ポイント下方修正されたもので、第1四半期のスロベニア経済の急激な縮小が主な要因となっている。スロベニア中央銀行は、今後2年間で成長率は2.

4%に回復すると予想している。一方、年間インフレ率予想は0.3ポイント上方修正され、2.5%となった。物価上昇率は来年2.2%、2027年には1.9%に鈍化すると予測されており、この上昇は一時的なものにとどまると見込まれている。

●燃料小売業者が価格規制の変更に反発【10日、12日、17日、24日】

燃料小売業者は、高速道路沿いのサービスステーションにも石油製品の価格設定への規制を拡大するという政府の変更案に一齐に反発している。10日、ペトルル社の取締役、サソ・ベルガー氏は、提案された変更は「石油製品供給業者の事業運営と、全国レベルでのグリーン移行の推進に対する深刻な脅威」だと述べた。ハンガリー資本のMOL(国内第2位の燃料小売業者)とシェル(市場第3位の事業者)も、草案の変更に対する懸念を表明した。

12日、政府は、燃料小売業者からの批判を無視し、自動車燃料の価格規制をさらに6か月延長し、現在完全に自由化されている高速道路沿いのガソリンスタンドを含む、国内のすべてのガソリンスタンドにこの制度を拡大することを決定した。

17日、高速道路網への規制拡大で燃料価格が上昇した。

24日、ペトルルは、地方の4つのサービスステーションを閉鎖し、地域社会に大きな衝撃を与えた。その中には遠隔地も含まれている。

●4月の工業生産が減少【10日】

スロベニアの統計局によると、4月の工業生産の総額は前月比1.2%減、前年同月比4.7%減となった。3月と比較すると、4月の工業生産額は、電気・ガス・蒸気供給で9.1%、製造業で0.6%、鉱業で0.3%それぞれ減少した。前年同月比では、電気・ガス・蒸気供給で11.5%、製造業で3.6%、鉱業で2.7%それぞれ減少した。

●スロベニア鉄道、1億5000万ユーロのスタッドラー社製新車両を初導入【13日】

スロベニア鉄道(SŽ)は、最新式のスタッドラー社製ディーゼル列車「Flirt」の最初の車両の運行を開始した。SŽは、注文した20両の新型ディーゼル車両のうち2両を受領し、残りの18両は年内までに納入される予定。

●雇用見通しについて雇用主の楽観的な見方が強まる【13日】

2025年下半期の雇用見通しはますます明るくなっており、雇用主は昨年秋よりも楽観的な見方を示している。雇用サービス局が発表した報告書によると、雇

用水準は2.1%増加すると予測されており、これは約3万2,000人の新規雇用に相当する。

●果物と蜂蜜の生産量が昨年増加【15日】

スロベニアの養蜂家と果樹農家は、2023年に比べて、昨年はより多くの収穫量を記録した。統計局が発表したデータによると、蜂蜜の生産量は前年比4倍の1,000トンに達し、果物の生産量は93%増の91,000トンとなった。スロベニアの自給率はすべての作物グループで増加し、穀物で81%、ジャガイモで41%、野菜で37%、果物で27%(11ポイント増加)となった。

●スロベニア、世界競争力調査で46位を維持し、順位下落を食い止める【17日】

スイスIMD研究所が発表した最新の競争力ランキングで、スロベニアは69カ国中46位となり、2023年から2024年にかけて8位下落したものの、昨年の順位を維持した。ビジネス環境と社会の変化への適応力・受容性が最も大きなマイナス要因となっている。

●スロベニア、実質個人消費はEU平均の85%を維持【18日】

スロベニアの購買力平価で表した一人当たりGDPは、2024年には欧州平均の91%となり、前年から1ポイント低下した。ユーロスタットの暫定推計によると、一人当たり実質個人消費はEU平均の85%で、これは2023年と同水準である。

●国民議会、電力供給法の改正を可決【18日】

国民議会は、グリーン移行の加速、消費者保護の強化、電力供給システムのレジリエンス強化を目的としたEU法に即した電力供給法の改正を可決した。

●イージージェット、11月にマンチェスター・リュブリャナ便を就航【19日】

英国の格安航空会社イージージェットは、11月からマンチェスターとリュブリャナを結ぶ直行便を就航し、2019年以来初めて両都市を直結する。EX YU Aviation Newsニュースポータルによると、新路線は11月4日から週2便(火曜日と土曜日)で運航される。

●スロベニア、欧州原子核研究機構(CERN)に正式加盟【23日】

23日、CERNは、スロベニアが6月21日に正式に正式加盟したと発表した。ゴロブ首相とパピッチ科学大臣は、「今回の加盟はスロベニアの科学と研究者の功績を称えるものであり、国の評判を高めるものだ」と述べた。

●6月の景況感は低下【24日】

6月のスロベニアの景況感は低下し、5月から2ポイント低下して-4.2ポイントとなった。統計局によると、この指数は前年比で2.8ポイント低下した。月次レベルでは、景況感を構成する5つの指標すべてがマイナスの影響を与えた。

●スロベニア、10億ユーロのサステナビリティ運動債を発行【25日】

24日、スロベニアは同国初のサステナビリティ運動債を発行し、10億ユーロを調達して、同国の環境・気候変動対策へのコミットメントを支援した。償還期限は2035年7月2日で、表面利率は3.125%。

●5月の調査失業率は3.9%【27日】

スロベニアの5月の調査失業率は3.9%となり、前月比で0.1ポイント低下したが、前年同月比では0.4ポイント上昇した。統計局の最新のデータによると、5月に失業状態にあった15歳から74歳までの推定人数は約4万人で、そのうち52%が女性だった。男性の失業率は3.4%、女性は4.5%だった。

●ヴェレニェで水素ベースの地域暖房の試験実施【29日】

ヴェレニェ市は、欧州プロジェクト「北アドリア海クリーン水素投資プラットフォーム(NACHIP)」の一環として、公共施設の暖房に水素を使用する試験を開始すると発表した。電気は太陽光発電所で生成され、電解により水素に変換される。このパイロットプロジェクトの費用は100万ユーロと見積もられている。

●ゴレニェ、デロ紙のトップ300企業リストで3位にランクイン【30日】

中国資本の家電メーカー、ゴレニェは、スロベニアの企業トップ300社リスト(デロ紙集計)において、売上高で3位に躍進した。エネルギー会社ペトルルは引き続きトップの座を維持し、国営電力持株会社HSEがそれに続いた。一方、製薬会社クルカは、純利益、従業員数等で1位となった。

●6月の年間インフレ率は2.2%に加速【30日】

統計局が発表したデータによると、6月の年間インフレ率は2.2%で、5月比0.4ポイント上昇した。6月の年間インフレ率上昇の主な要因は、食料品とノンアルコール飲料の価格上昇(6.7%)で、次いでレストランとホテルの価格上昇(5.0%)であった。

●工業製品・サービスの売上高は昨年2.7%減少【30日】

工業製品およびサービスの売上高は昨年308億ユーロで、前年比2.7%減少した。2023年の0.

7%減に続き、2年連続の減少となる。一方、統計局の発表によると、2021年は11.1%、2022年は15.7%増加した。

治安・事件事故

●2024年の警察統計【5日】

内務省が発表した2024年の警察関係統計によれば、同年中の犯罪認知件数は59,234件で、前年から約5千件増加した。また、警察への113通報件数は約53万件であった。治安上の課題としては、家庭内暴力、スポーツイベントでの暴動、不法移民などが指摘された。

●国境検問を延長【20日】

クロアチア及びハンガリーとの国境における検問が所定の満期を迎え、半年延長された。政府は、検問延長の理由の1つにテロ脅威レベルの増加を挙げつつ、検問が夏休みシーズン中の交通に悪影響を及ぼさないことを強調している。

●リュブリャナで侵入窃盗・強盗あいつぐ【29日】

6月末の週末、リュブリャナ市内及び近郊の住宅やオフィス等において、侵入窃盗事件が多数発生した。ドムジャレ地区では、住宅に押し入った男が住人に軽傷を負わせる強盗事件も発生しており、警察は注意を呼びかけた。

社会・文化・スポーツ

【生活等】

●2023年スロベニアの平均寿命【2日】

2023年のスロベニアの平均寿命は82歳だった。性別では、女性で85歳、男性で79歳だった。

●スロベニアのレストラン9軒がミシュランの星を獲得【12日】

フランスを代表するレストランガイド「ミシュランガイド」で、今年スロベニアのレストラン9軒がミシュランの星を獲得した。昨年より1軒少ない数となった。アナ・ロシュ氏の「ヒシャ・フランコ」は3つ星を維持し、シェフのダヴィッド・ゼフラン氏率いる「ミルカ」も2つ星を維持した。その他7軒がそれぞれ1つ星を獲得した。

●調査:スロベニア人の5人に1人以上が違法薬物を試したことがある【28日】

国立公衆衛生研究所(NIJZ)の調査によると、15歳から64歳のスロベニア人の5人に1人以上(22.4%)が、人生で一度は違法薬物を摂取したことがある。この割合は、大麻を使用した人の割合と一致している。2023年に実施されたタバコ、アルコール、その他の薬物の使用に関する第3回全国調査では、人口の22%が大麻を使用したことがあると回答し、MD

MAを使用したことがあるのは3.3%、コカインを使用したことがあるのは3.1%、アンフェタミンを使用したことがあるのは2.7%だった。

【スポーツ・文化】

●ポガチャルがクリテリウム・デュ・ドーフィネで初優勝【15日】

スロベニアの自転車競技のスター選手、ポガチャル選手(UAEチーム・エミレーツ-XRG)が、フランス南東部で開催されたクリテリウム・デュ・ドーフィネのロードレースで、優勝した。

●長い休養を経て、ガルンブレットがインスブルックで優勝【27日】

ワールドカップ競技から長期の休養を経て、スロベニアのクライミング界のスーパースター、ヤニャ・ガルンブレットが華々しく復帰し、インスブルックで開催されたIFSCワールドカップの女子ボルダリングで優勝した。2度のオリンピックチャンピオンである同人は、9か月間の競技休止を経て復帰した。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282 Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: <http://www.si.emb-japan.go.jp/website.jp/index.j.html>

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

【領事班からのお知らせ】

●第27回参議院議員通常選挙に伴う在外投票が以下のとおり実施されます。在外選挙人証をお持ちの方は、投票を行うことができます。詳細は、当館 HP をご覧ください。

【公示日】 7月3日(木)

【当館での投票実施期間】 7月4日(金)～12日(土) 各日9:30～17:00

【投票に必要なもの】 在外選挙人証、パスポート等の写真付き身分証明書

【当館 HP】<https://www.si.emb-japan.go.jp/files/100867271.pdf>

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。在留届は、渡航前にオンラインで提出することも可能です。また、住所・連絡先の変更、同居家族の追加など、提出済み在留届の記載事項に変更が生じた場合は「変更届」を、帰国や当館管轄地域外へ転出する場合は「帰国・転出届」を必ずご提出ください。特に、当館からの重要な連絡が確実に皆様へ届くよう、Eメールアドレスや携帯電話番号の変更があった際はすみやかに届出をお願いいたします。

●戸籍法の一部改正等に伴い、戸籍の記載事項に氏名のフリガナが追加されることになりました。関連する手続きについては、大使館窓口で行うことができます。ご希望の際はお問い合わせください。

【当館 HP】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr/ja/11_000001_01045.html

●旅券(パスポート)や一部証明等の申請の際に、紙の戸籍謄(抄)本の提出が不要となりました。今後、これらの手続を行う際には、あらかじめ、「戸籍電子証明書提供用識別符号」を取得していただくこととなります。詳しくは以下のリンク先をご覧ください。

【当館 HP】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr/ja/11_000001_00993.html

●ところがモヤモヤしたり、ざわついたりするときは、相談してみませんか？

外務省は、特定非営利活動法人と連携して海外在住日本人の孤独・孤立対策の支援を行っています。海外にいても、SNSやチャットを使って日本語で相談できます。相談は無料です。

【外務省HP: 孤独・孤立及びそれに付随する問題でお悩みの方へ】

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/info20210707.html>

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>